

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070900459		
法人名	社会福祉法人みやび会		
事業所名	グループホームふじの里		
所在地	群馬県藤岡市中大塚607-1		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園の活用

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の評価結果を踏まえて、管理者と職員は会議等で話し合い、玄関の施錠に関しては暗証番号式のスイッチからボタン式に変更して、本人が自分でボタンを押して外出できるように改善している。職員は利用者の思いや意向を把握するため、日々の利用者の言葉や表情、行動等を細かく観察して記録に残し、本人の希望に沿った支援に繋げている。理念に謳われているように、利用者の安全を重視して室内の清潔保持に努め、転倒等の事故に繋がらないような環境づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール・事務所に掲示し、常に確認出来るようにしている。	“安全な生活環境と清潔保持”をモットーに、管理者と職員は申し送り時や会議の中で、ケアの方向性を確認し合い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元区長さん・民生委員さんに運営推進会議の委員をお願いし、出席して頂いている。散歩時近隣の方と挨拶を交わしている。	散歩時に近隣の人々と挨拶を交わしている。高校の園芸福祉科の生徒が菜園の手入れに訪れ、職員が社会人講師として高校へ出向いている。中学校の体験学習の受け入れをしている。法人の夏祭りに地域住民を招き、利用者も参加して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あれば対応していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容等報告し、ご意見等頂けた時は活かせるよう実践していきたい。	会議は2ヶ月毎に開催されている。運営状況等を報告、介護サービス情報の公表・自己評価等について説明し、意見交換を行っている。そこでの意見等はサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事等があれば相談させて頂いている。	月1回、介護相談員の受け入れを行っている。管理者は困難事例等で地域包括支援センターに相談したり指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないよう取り組んでいる。万が一必要となった時は説明同意書による。	身体拘束をしないよう取り組んでいる。玄関の扉はボタン式に変更し、ボタンを押すと開錠できる。利用者は自分の手や杖でボタンを押して、外に出ている。徘徊願望の人には職員が付添って一緒に出かけている。今年度は身体拘束に関する研修への参加や勉強会は行われていない。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解するためにも、身体拘束に関する定期的な勉強会を実施して職員の共通認識を図ってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ささいなことでも決して虐待がないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度説明のパンフレットを回覧し、学習する機会としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時は十分にご理解・ご納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望があった時は記録に残し、会議にて話し合う。	“うどん打ちをしてみたい”という利用者の要望に応じて実施した。家族等の来訪時には、言葉をかけて意見や要望等を聞くように努めている。月1回、職員がバイタル・通信欄に本人の日常の様子を記載し、家族等に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議をその機会としている。	月1回、ケース会議も兼ねた職員会議を開催して、運営に関する職員の意見や提案等を聞くように努めている。職員の意見や提案等は、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の実施 外部研修への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加盟している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えが困難な時はご家族から伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力に応じ、出来ることはお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診・消耗品の補充はご家族対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会・外出に制限を設けていない。	友人や知人、近所の人、昔一緒に働いていた人等が遊びに来ている。馴染みの店へ買物に出かけている。家族等と一緒に外食や外泊をしている。月命日に必ず自宅に帰る人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流の橋渡しになれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば勿論対応します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを把握出来るよう、アセスメント等で希望や意向を伺い会議で話し合っている。	生活歴や生活習慣を基に、本人の言葉や表情、行動等の中から、思いや意向を汲み取るようにしている。家族等からも情報を得て、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌等に分かりやすく記載するよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議での話し合いや、ご本人・ご家族からの意向を伺い計画を作成している。	本人・家族等から思いや意向を聞き、職員会議で話し合い、意見や気づき等を介護計画に反映させている。月に1度のモニタリング、4～6ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	新たな要望や状態の変化が無いようでも、月に1度のモニタリングを基に、3ヶ月毎に定期的な見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の動静を日中・夜間に分け記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ることは対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元高校生・中学生との交流 慰問等楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診はご家族対応をお願いしている。必要に応じ、医師へ情報提供をし指示を頂いている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診が出来ない場合は、職員が代行して受診結果を報告している。月1回、協力医が往診に来ている。希望に応じて歯科医の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を加算しており、週に一回看護師の訪問がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院については主治医の判断である。退院時サマリーをお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を定めており、ご希望があればグループホームで出来ることを説明し、支援に取り組んでいきたい。	入居時、本人・家族等に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、意向を確認している。状態の変化に応じて、家族等と話し合い、かかりつけ医及び関係者全員と連携を図り、本人が満足するような看取りの支援に取り組んでいる。1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の受講。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を実施している。 近隣の方に防災協力員をお願いしている。	年2回、日中・夜間想定で自主防災訓練(避難誘導訓練・消火器の使い方)を実施している。年1回、防災協力員の話し合いを行っている。備蓄として、食料・飲料水・毛布等、法人施設で用意している。	年1回は消防署立会いで、総合防災訓練を実施し、防災協力員や地域住民の参加が得られるように期待したい。災害時に、利用者や職員が確実に避難できるよう、避難誘導訓練の増加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助中ドアを閉め忘れてしまうことがあるので、十分に注意していきたい。	馴れ合いにならないよう気をつけている。全職員に実践状況を記入してもらい、会議等の中で話合っている。入室の際は必ず言葉をかけ、トイレ誘導時の言葉かけや声のトーン、排泄介助の対応には十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけではなく、問いかけるようにしている。 おやつを選択メニュー・誕生日には希望メニューを伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物など希望があれば対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の提供やおやつレクで、食事をする楽しみを味わって頂いている。	献立や食材は宅配業者から納入して、調理をしている。利用者は職員と一緒におやつ作り(おはぎ・柏餅等)を行っている。行事食やおやつ作り、誕生日には希望のメニューを提供している。職員は利用者と同じものを食べていない。	事業所の特性を踏まえて、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめるような環境づくりに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食・きざみ食の提供 とろみの使用などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。 夜間は義歯を洗浄剤に漬けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時や訴え時の他、様子によりトイレの声かけ・誘導を行っている。	排便チェック表を作成している。定時誘導の他に、本人の訴えや様子を確認して、排泄の言葉かけや誘導を行っている。失禁時の対応については、プライドを傷つけないよう配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、ラジオ体操・散歩への参加の声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は決まっているが、個別対応にて入浴して頂き、演歌・民謡などを聴きながらゆっくり入浴が出来るよう心がけている。	日曜日(清掃日)を除き、月曜から土曜日に入浴支援を行っている。1日4名位で、ゆつくりと入浴を楽しんでもらえるようにしている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫や時間・曜日等の変更で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠がある時はベッドで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より薬の内容を頂き確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクの他、洗濯たたみや衣類のほつれの修繕等お手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の声かけや、季節が感じられる外出レクなどを計画し行っているが、外出レクは、参加者が限られ、同じ人になってしまっている。	近隣への散歩や買い物、桜の花見・菊花展・蘭展・紅葉狩り・菓子工場見学等へ出かけている。家族等と一緒に、外食・美容院・外泊等に出かけ、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じ、自己管理している方と施設管理している方がいる。希望に応じ買い物に行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔を心がけ、ホールには花や季節の飾りなどをして、季節感を取り入れている。	室内は天井が高く開放感があり、清潔が保持されている。ホールには絵画を飾り、テレビ・テーブル・ソファ等を設置している。畳の間には鎌倉彫の筆筒や七五三の着物を飾り、掘炬燵を設置している。水槽に熱帯魚や金魚を飼育しており、観賞できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席とは別に、ソファでの談話スペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由なので、使い慣れたもの・愛着のあるものを持って来て頂き、居心地のよい居室になるよう配慮している。	居室には、洗面台やトイレが設置されている。ベッド・テーブル・椅子・筆筒・衣装掛け・位牌・家族の写真等、馴染みのものや好みの品々が持ち込まれ、その人らしい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、各居室全てに洗面台・トイレを完備している。		